

# 京都大学 (京都府)

学問・文化に全身全霊を注ぐ実り多き1年を



## ■大学紹介

### ① 大学の特色及び概要

1) 京都大学は1897年の開学以来個性的でアカデミックな学風を打ちたて、現在もその精神は健在である。今日では、10学部、18大学院研究科、30を超える研究所やセンターおよび図書館、病院等を有する日本有数の総合大学として、学術・文化の発展に貢献している。

2) 京都大学の教員数は、2022年5月1日現在3,475名であり、12,889名の学部学生、9,566名の大学院生が、吉田、宇治、桂の3キャンパスに分かれて勉学、研究に励んでいる。

教授	准教授	講師	助教	助手
1043	922	279	1230	1

(2022年5月1日現在)

### ② 国際交流の実績

京都大学では2022年5月1日現在、109ヶ国・地域からの、2,766名の留学生が学んでいる。国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターはこれらの学生の勉学・研究を、教育・生活の面から支援している。

京都大学は、国際交流の拠点大学として55ヶ国・地域・機関の182大学3大学群16機関と大学間協定を提携しながら、学術国際交流を推進している(2022年4月1日現在)。部局間学術交流協定を締結している機関数も749に上り、日常的に学術国際交流が可能な環境が整備されている。これらの機関からの交換留学生の受入れや日本人学生の海外留学を推進しつつ、世界的な視野で考え、行動できる学生の養成に大学全体として力を入れている。

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2022年：留学生数 2,766人、日研生 22人  
2021年：留学生数 2,667人、日研生 21人  
2020年：留学生数 2,715人、日研生 11人

### ④ 地域の特色

京都は美しい自然に恵まれ、千年有余の歴史と豊かな伝統を誇る古都として世界的に有名であるが自由闊達な精神を育ててきた学術の街としても知られる。

## ■研修・コースの概要

### ① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

### ② 研修・コースの特色

本プログラムは、将来日本をフィールドにしながら、教育・研究分野、外交分野、国際機関、多国籍企業等での人的交流のかなめとなる役割を担うことが期待される人材を養成する京都大学のプログラムである。



↑百周年記念時計台(吉田キャンパス本部構内)

自国で日本語や日本文化を学んでいる学生が、1年間京都大学に留学することによって、日本語だけでなく、多様な日本の文化や現代社会に接し、理解を深めるプログラムを提供する。

更に、世界各国からの学友との共学や、課題研究への取り組みを通して、世界を視野に入れた幅広い思考力と実践力を育成する。

### ③ 受入定員

15名(大使館推薦11名、大学推薦4名)

### ④ 受講希望者の資格、条件等

#### 1) 資格

日本語能力試験(JLPT)N2以上を保持し、在籍大学で日本語・日本文化を専攻している学生であること。

#### 2) 条件

京都大学の研修プログラムでは日本人学生とほぼ同等の内容の講義が、ナチュラルスピードの日本語で行われる。また修了論文作成の一環として文献を読み、研究・調査を行ない、発表することになっており、最終的に論文を執筆する。プログラム参加者にはこれらを受講し、修了研究論文作成を行うことのできる日本語運用能力が求められる。更に、研修プログラムを受講するための基礎的知識・学力を備えていることが望ましい。

### ⑤ 達成目標

このプログラムでは、日本社会・文化に対する知見を深め、同時に学術レベルの高度な日本語力の修得を到達目標とする。

## ⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬～2024年9月下旬  
（在籍期間：2023年10月1日～2024年9月30日）

## ⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年9月

## ⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2023年は9月26日）  
9月28日 履修ガイダンス（予定）  
9月29日 開講式（予定）  
10月上旬 図書館利用ガイダンス  
10月下旬 奈良東大寺見学  
11月上旬 和菓子作り体験  
11月下旬 街並み散策・町家見学  
12月上旬 産経新聞大阪本社訪問  
12月上旬 歌舞伎鑑賞会  
12月中旬 能楽鑑賞会  
12月中旬 裁判所見学・裁判傍聴  
1月上旬 京都国立博物館見学  
2月中旬 実地見学旅行（1泊2日）  
4月中旬 茶道体験  
4月下旬 俳句作り・句会  
5月上旬 通訳教室  
5月下旬 庭園見学  
6月上旬 高校訪問  
6月中旬 文楽鑑賞教室  
6月下旬 書道教室  
7月上旬 企業見学  
7月中旬 祇園祭見学  
7月下旬 座禅体験  
7月下旬 修了研究発表会  
9月13日 修了式（予定）  
9月下旬 帰国（2024年は9月30日）

## ⑨ コースの修了要件

本プログラムに1年間在籍し、次のa)、b)、及びc)を満たした学生に対し、本プログラムの修了を認定し、修了証書を授与する。

a) 次の各分野の必修、選択必修科目から計32単位以上を修得すること。日本文化科目：選択必修12単位、日本語科目：必修16単位、日本語・日本文化研究論文作成演習：必修4単位

b) 日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文を提出し、審査に合格すること。（4単位）

c) 合計90時間の日本文化研修に参加すること。

修了判定は国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター運営委員会にて行う。

上記授業科目の成績を記載した履修証明書を発行すると共に、修了要件を満たした学生には修了証明書を授与する。

母国大学の学期開始のため早期帰国が必要な学生は、帰国前に修了研究論文第1稿を提出し、帰国後に完成稿を提出することを条件に、8月中旬以降の早期帰国が認められる。

## ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

授業科目名	必修・選択	単位数		時間数
		I期	II期	
a) 必修・選択科目				
日本文化科目	日本社会論	選択必修	6 (最大取得可能な単位数:10)	30
	現代日本の社会問題			
	日本の経済			
	日本の法と政治			
	日本の歴史と文化			
	人文・社会科学科目群推奨科目			
日本語科目	日本語概論	必修	2	30
	日本語アカデミック・リーディング	必修	2	30
	日本語アカデミック・ライティングⅠ	必修	2	30
	日本語アカデミック・ライティングⅡ	必修	2	30
	日本語アカデミック・プレゼンテーションⅠ	必修	2	30
	日本語アカデミック・プレゼンテーションⅡ	必修	2	30
	日本語の歴史	必修	2	30
	日本語教育演習	必修	2	30
	論文作成演習Ⅰ	必修	2	30
	論文作成演習Ⅱ	必修	2	30
修了研究	b) 修了研究論文	必修	4	
c) 日本文化研修				90

### 1) 研修・コース科目の特徴

本プログラムでは、日本に対する理解を深めることを目的に、日研究生専用の日本文化科目や日本人学生と共に学ぶ人文・社会科学科目群推奨科目を履修する。

また、京都の豊かな伝統と文化を直接体験する日本文化研修を実施している。更に、日本語・日本文化研究論文作成演習やアカデミック・ジャパニーズ科目を通して、調査・研究に必要なアカデミックスキルや高度な日本語力の修得を目指す。また、自らの関心事を切り口に日本を探究する修了研究に励むことにより、学習を通して得られた知見の更なる深化を図る。

### 2) 研修・コース開設科目

#### 1) 必修科目（10科目、300時間）

・日本語概論

人称表現、授受表現、配慮表現などを考察対象としながら、日本語の特徴について学ぶ。

・日本語アカデミック・リーディング

学術論文や専門書の構造を理解し、必要な情報を素早く、且つ的確に読み取るリーディング・スキルの習得を目指す。

・日本語アカデミック・ライティングⅠ・Ⅱ

実践的練習を行いながら、論文・学術レポートを日本語で書く上で必要な知識・技能を習得する。

・日本語アカデミック・プレゼンテーションⅠ・Ⅱ

日本語でのアカデミック・プレゼンテーションのための日本語技能を高め、構成力、表現力等を習得する。

・日本語の歴史

日本語がどのように生まれ変化してきたのか、どのような表記を用いていたのか、どのような発音であったのかなど、日本語の歴史について学ぶ。

・日本語教育演習

文学部・文学研究科の学生と共に「魅力的な日本語」及び習得が困難な日本語の学習項目を選定し、それらを多角的に分析しながら、興味を喚起する指導法や正確な習得を促進する指導法を探る。

・日本語・日本文化研究論文作成演習Ⅰ・Ⅱ

各学期4クラスずつ開講。日本をテーマにした論文を作成するために必要な資料の収集方法や扱い方、論文作成の方法を個別に指導する。本科目の一環として論文構想発表会、中間発表会、修了発表会を実施し、研究の中間・成果報告を行う。

・日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文  
日本に関わるテーマについてオリジナリティのある論文を執筆する。執筆した論文を「日本語日本文化研修留学生報告書」として発行している。

Ⅱ) 選択必修科目 (5科目中3科目を履修、90時間)

・日本社会論

日本の伝統社会が各時代を通じて、どのように変化してきたのか、その過程において“近代化”が果たした役割とは何かについて理解する。

・現代日本の社会問題

人口構造・ジェンダー・雇用・不平等に焦点を当てつつ、現代社会問題の歴史の変遷と現状を把握する。

・日本の経済

標準的なマクロ経済学の概念および手法を身に付け、それに基づいて日本経済で過去起きたこと、現在起きていることを理解する。

・日本の法と政治

日本法の歴史を踏まえつつ、日本政治の実際の動きについて知見を深める。

・日本の歴史と文化

古代から現代に至る日本の文化を、文学、歴史、哲学、美術等の多方面から考察する。長い歴史を経て、日本のさまざまな文化的所産がいかに形成され、また時代の流れとともにいかに変貌を遂げてきたかを考える。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

日本、とりわけ京都の文化の特質や歴史の変遷を理解することを目的に各学期45時間の日本文化研修を行う。同研修は原則的に事前講義と体験から構成されており、文化の担い手や高校生等との地域交流も含まれる。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・選択必修科目 (3科目、90時間)

京都大学全学共通科目の中から日本語・日本文化研修留学生用に選定された推奨科目より各学期2～3科目を選択して履修する。日本人学生と共に学ぶこれらの科目は、文学、言語、教育、法・政治、

歴史、社会の諸分野より自らの専攻分野や関心に沿って選択できる。

・大学院生の日本人チューターがグループ活動の形で、日研生の学習や生活のサポートを行う。

### ⑪ 指導体制

1) 日本語・日本文化研修留学生は京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターの科目等履修生として在籍し、本学で認定した単位を修得する。

2) 日本語・日本文化研修留学生の指導は日本語・日本文化教育センターの教員を中心に担当する。  
プログラム主任教員：

ルチラ パリハワダナ (国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、教授・専門：日本語学・日本語教育学)

プログラム副主任教員：

湯川 志貴子 (国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、准教授・専門：日本古典文学)

その他日本語・日本文化教育センター専任教員数名が主として指導にあたる。

### ■宿 舎

すべての日本語・日本文化研修留学生は、京都大学国際交流会館修学院本館、百万遍国際交流会館 (いずれも京都市左京区) 等の留学生・外国人研究者用の寮に入居することができる。家賃は単身室で月2万円～3万円台で、入居日は9月末の平日、退去日は9月末から一週間前頃となっている。また、民間アパートを希望する学生は、京都市内のアパートを自分で探すこともできる。家賃は月平均4万円程度であるが、入居の際には敷金・礼金を支払う制度があり、家賃1～3カ月分程度の費用が別に必要となることが多い。



←新聞記事  
作成に挑戦

2020年10月～2023年9月までの3年間における日本語・日本文化研修留学生の宿舎入居実績は54名中54名である。

### ■修了生へのフォローアップ

修了日研生の主たるキャリアパスとして、日本企業・日系企業への就職、大学院進学やその後の教育・研究分野でのキャリア、外交官などが挙げられ、母国と日本をつなぐ架け橋として、グローバルに活躍している。

日研生が本学で修得した単位を母国大学の卒業課程の単位として振替できるよう、修了後に必要な証明書の発行や情報提供を行っている。

修了日研生に対し、日本の大学院への進学のサポートや必要に応じて就職等のための推薦を行っている。

また、修了日研生との日常的な交流を絶やさないように努めており、メールでの連絡を通じた近況把握・アドバイスの実施、修了日研生が渡日した際や担当教員が協定校等を訪問する際の面会などを行っている。本学大学院進学者に対しては後輩に情報を提供する機会を作ることにより、日研生同士のネットワーク作りを手助けしている。更に、修了日研生の出身大学の教員と交流を深めることを通して、ネットワークの強化に努めている。

### ■問合せ先

<担当部署>

京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター

担当事務：国際・共通教育推進部留学生支援課日本語教育掛

住所：〒606-8501

京都府京都市吉田二本松町

TEL： +81-(0)75-753-9586 (直通)

FAX： +81-(0)75-753-3316

Email： A30kyomuj@mail2adm.kyoto-u.ac.jp

<ウェブサイト>

京都大学日研生ウェブサイト：

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/students2/japanese/toku>

京都大学国際高等教育院：

<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>